



コンテスト実行委員長

常田 寛 (CEC副理事長、光村図書出版株式会社 社長)

ICT夢コンテストは、“次世代の子どもたちがこれからの社会を生き生きと生きる力を身に付けていてほしい”そんな願いをこめて、開催することになりました。

情報通信技術の利活用は子ども同士で教え合い学び合う協働学習に結びつけます。それを一層促進していくのは、学校を中心とした先生方であり、ICTを多様に活用する授業実践にあります。

また、家庭や地域活動に取り組んでおられる皆様にも、活発な子供を育てる実践等にICTを活用していただき、活用に慣れ親しんでいただきたいと思います。

教育の情報化は、早いスピードで進んでいます。未来を担う子どもたちを育てるため、私たちはそれに対応しなくてはなりません。

当コンテストはそれを支えるものとして実施いたします。コンセプトは「ICTを活用して、地域で支えられる次世代の子どもを育む」です。

皆様、たくさんのご応募をお待ちしております。

ご案内

「平成25年度「教育の情報化」推進フォーラム(CEC成果発表会)」
※当フォーラムの会場で表彰式を行います。

開催日：平成26年2月28日(金)～3月1日(土)
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)
内容：「教育の情報化」をテーマとした特別講演／基調講演
総括パネルディスカッション／分科会等



昨年の表彰と発表

◆ 表彰

総務大臣賞	佐賀市立若楠小学校
文部科学大臣賞(学校部門)	横浜市立北方小学校
文部科学大臣賞(地域部門)	静岡市民生活課、静岡市学校教育課、 静岡市障害者福祉課、パソコンわかばくらぶ
NHK賞	上越教育大学付属小学校
CEC賞	大阪府立東百舌鳥高等学校
JAPET賞	長崎市立茂木中学校
審査委員長特別賞	兵庫県たつの市立小宅小学校
CEC特別賞(東日本大震災復興)	岩手県立総合教育センター
CEC奨励賞	27件(学校部門21件 地域部門6件)

◆ 昨年度の表彰式と分科会での発表

国立オリンピック記念青少年総合センターの国際会議室にて、表彰式が行われました。

分科会にて、受賞された先生や社会人の方々の実践事例の発表がありました。



学校と地域がICTを活用して次世代の子どもを育む ICT夢コンテスト2013

～支えよう学校、つなげよう地域～

実践事例募集のご案内

募集詳細

CECホームページICT夢コンテストに掲載
http://www.cec.or.jp/yume/yume_top.html

募集部門

- 学校部門 … 授業をはじめとしたICT利活用のさまざまな実践
- 地域部門 … 地域、家庭、大学、企業等のICT利活用のさまざまな実践

募集期間

平成25年7月10日(水)～9月27日(金)

後援

総務省、文部科学省、経済産業省、NHK(予定)

主催

一般財団法人コンピュータ教育推進センター

共催

一般社団法人日本教育工学振興会



ICT夢コンテスト2013

学校と地域がICTを活用して次世代の子どもを育む



～支えよう学校、つなげよう地域～

募集概要

募集期間

平成25年7月10日(水)～9月27日(金)

募集部門と対象者

- 学校部門…幼稚園・小・中・高・特別支援学校など
- 地域部門…シニア・NPO・PTA・学生・CSRの事例など

募集事例の対象

応募締め切りの平成25年9月27日(金)までに実践したもの／実践しているものを対象とします。
今後実施を計画しているものや過去の受賞歴のあるものは対象外とします。

応募方法

応募用紙(A3サイズ)に実践事例の内容をご記入いただき、メールに添付し、ご応募下さい。
応募用紙は、CECホームページの「ICT夢コンテスト」のページに掲載しています。

http://www.cec.or.jp/yume/yume_youkou.html

表彰

総務大臣賞、文部科学大臣賞(学校部門／地域部門)

NHK賞、JAPET賞(予定)

CEC賞、CEC特別賞(東日本大震災復興)

CEC奨励賞(複数)

*副賞があります。

表彰式

平成26年2月28日(金)

於：平成25年度「教育の情報化」推進フォーラム(CEC成果発表会)
「教育の情報化」推進フォーラム(CEC成果発表会)において、
実践事例の発表と本フォーラムのレジュメ集執筆を行って
いただきます。

応募先

ICT夢コンテスト事務局 E-mail : yume-oubu@cec.or.jp

お問い合わせ

一般財団法人 コンピュータ教育推進センター

ICT夢コンテスト事務局 TEL: 03-5423-5913

〒108-0072 東京都港区白金1-27-6 白金高輪ステーションビル3F

募集要領

応募事例

学校部門／地域部門とも共通の応募用紙です。

◆学校部門(授業をはじめとしたICT利活用のさまざまな実践)

- ◇応募が考えられる対象
教職員、教育委員会、ICT支援員など

◆実践領域

- ・授業活動を生むICT活用実践事例
- ・楽しい授業、わかったという授業の実践事例
- ・模範になる実践、普及できる実践事例

たとえば、

- ・学校のICT利活用授業事例
- ・情報モラル教育の実践事例
- ・学校ICT支援員の実践事例
- ・学校のクラブ活動や部活動などの自主的な実践事例
- ・教育委員会などの取り組み事例

◆地域部門(地域、家庭、大学、企業等のICT利活用のさまざまな実践)

- ◇応募が考えられる対象
シニア(パソコンクラブなど)、PTA、大学生、NPO、CSR実践企業など

◆実践領域

- ・情報活用の実践事例
- ・ICT利活用した社会活動、新たな取り組み事例
- ・学校と家庭における情報活用の連携事例

たとえば、

- ・シニアが行なう児童生徒の情報活用能力を育成する取り組み事例
- ・院生・学生やCSRなど、ICTを活用した学校や子ども支援の取り組み事例
- ・家庭やシニアの情報モラル普及の実践事例
- ・ICTを利用したPTA・シニアの取り組み事例
- ・退職した社会人などのICT利活用した子どもへの社会活動
- ・交流、web、英会話などの支援活動

◆応募の項目

- ①実践の概要
- ②実践の特徴(アピールポイント、先進性、独創性、普及の可能性)
- ③学習の中のICT活用の工夫
- ④成果(園児生徒等の変容あるいは絆の深まり、その結果、どう変わったか。)
- ⑤実践事例のアピールポイント(2つ程度)

◆評価のポイント

- ①ICTを効果的に活用しているか
- ②先進性・独創性(先進的・独創的・新奇性、チャレンジ性、感動的)があるか
または、広く普及することが見込めるか(一般性・継続性・普及性・波及性)
- ③絆が深まったか(たとえば、家庭と学校・地域、チーム力、協同性、協調性、協働学習)

